

科目名		理学療法評価学実習Ⅰ		授業の種類	実習	講師名		
授業回数	23回	時間数	45時間 (1単位)	配当学年・時期	理学療法士科2年	後期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

評価学で身に付いた評価ツールを用い、各疾患を評価していく。さらに疾患の特性に応じた統合と解釈を練習する。発表と討論の形式で実技を進めていく。

〔授業全体の内容の概要〕

疾患に応じた評価項目の選択から統合と解釈まで、グループで展開していく。理学療法評価学Ⅰ・Ⅱで身に付いた正常者への評価方法から疾患別に評価方法を選択し、疾患別の障害像にあった主要評価方法を練習する。仮説に基づいた統合と解釈を練習する。

〔講師の実務経験〕

リハビリテーション病院にて主に脳血管障害に対して12年間理学療法士として従事する。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

- ①各疾患の特性に応じた評価項目が選択できる ②選択した項目を客観的な評価ができる
③評価の結果得たデータを選択し、仮説を立てて、関連性を結びつけて統合作業を行い、解釈ができる

回数	講義内容
1	オリエンテーション
2	姿勢の分析
3	変形性膝関節症
4	変形性膝関節症
5	変形性股関節症
6	変形性股関節症
7	大腿骨頸部骨折
8	大腿骨頸部骨折
9	関節リウマチ
10	関節リウマチ
11	糖尿病
12	糖尿病
13	脊髄損症(頸損)
14	脊髄損症
15	パーキンソン病
16	パーキンソン病
17	片麻痺(軽度)
18	片麻痺
19	片麻痺(中等度)
20	片麻痺
21	片麻痺(重度)
22	片麻痺
23	脳性麻痺(両麻痺)
	定期筆記試験

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
理学療法ハンドブック		協同医書出版社

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

グループ別に実技内容を行う。評価項目の理解と選択や客観性を臨床実習に向けての実技能力を評価する。また、筆記テストを行い総合的に評価する。